

平成19年度「学生による後期授業評価調査」結果に対する学部包括コメント
社会福祉学部評価委員会

平成19年度後期に実施した「授業評価調査」結果について、各教員の「自己点検票」等から次のとおり「分析、課題、改善策」をまとめました。

ただし、

前年度までの調査項目、様式が変更されているため前年度比較は限定的なものになっています。

今回は少人数のゼミ形式の授業については実施していません。

学生が特定されやすく、ほとんどが、の肯定的評価になっていたためです。

1 分析

《 学部 》

総体的に6段階の評定のうち特に肯定的な評価を示す の計が殆どの項目で60%を超えています。因みに肯定的な評価 の計は次のとおりです。

()内は19年前期

[社会福祉学部]		差	
「熱意」	; 70.5 % (69.8%)	+	0.7ポイント
「目標達成」	; 40.2 (31.8)		8.4
「授業で得たもの」	; 63.4 (55.6)		7.8
「満足」	; 63.5 (55.3)		8.2

これに を加えるとほぼ80%となっています。

()内は19年前期

[社会福祉学部]		差	
「熱意」	; 90.8 % (90.7%)	+	0.1ポイント
「目標達成」	; 76.2 (67.5)		8.7
「授業で得たもの」	; 86.5 (81.7)		4.8
「満足」	; 84.6 (78.8)		5.8

全体的な傾向

19年度前期と比較して数ポイントの改善が見られました。

他の学部数値と比較しても高い評価となっています。 別紙グラフ参照

昨年度の結果と比較しても改善向上が見られました。

今回、昨年度高評価の「少人数」のゼミ形態の科目を除いたため、全体的に数値が下がることを想定しましたが、結果的に大きな改善が見られました。

個別項目について

Q1 関心の度合いについて

; 「関心がない」が7.0%になっています。
自分の専攻領域以外の必修科目等にその傾向が見られます。

Q2 履修の時期について

; 88.6%が「適切」と受け止めています。
特に大きな問題はないと考えられます。

Q3 受講者数について

; 88.3%が「適切」と受け止めています。
特に大きな問題はないと考えられます。

Q4 真剣な態度について - 全学トップ

; 47.5%が肯定的ですが、7.8%の学生が消極的でした。
しかし前期との比較では改善されています

Q5 予習・復習への取り組みについて

; 29.8%が、「予習等に取り組んだ」となっています。
全学と比較し消極的な取り組みです。

本学部の最も課題となる結果です

ただし、前期の20.5%に比べ9.3ポイントの改善が見られました。

予習復習のできない要因はさまざま考えられますが、要改善事項です。

Q6 授業の量について

; 「妥当」は73.1%ですが、「多い」と受け止めている学生が約24%います。
「国家資格取得」の要件を充たすためにはある程度やむを得ないものと考えます。

Q7 授業の速度について

; 「妥当」は80.5%です。「速い」と感じている学生が15.6%います。
若干の配慮が必要です。

Q8 授業の難易度について

; が64.1%ですが、極端ではないものの「難しい」としている学生が33.2%です。

検討が必要です。(科目の傾向 自分の専攻以外の科目)

ただし、その科目の「満足度」は高いものが多くむしろ充実感が見られます。

Q9 改善すべき事項の第1位について ()内19前期

; 板書・教材	14.2%	(19.0%)
内容構成	11.9%	(18.4%)
話し方	10.7%	(14.3%)

一定の改善が図られていますが、今後 改善努力が必要です。

- Q10 教員の熱意について - 全学トップ
; , 70.5%の学生が教員の熱意を感じています。
- Q11 到達目標の達成について - 全学トップ
; , 40.2%の学生が達成と感じていますが、「できなかった」が5.7%でした。 多数の学生が履修する場合の授業では限界と考えます。
- Q12 授業で得たものについて - 全学トップ
; 「得たものが多かった」63.4% 概ね 良好です。
「そう思わない」3.6%となっています。
- Q13 満足度について 全学トップ
; 「満足できた」63.5% 概ね 良好です。
「不満」4.1%となっています。

改善が図られた要因の何点かをあげると

- ・ 「レスポンスカード」を効果的に活用し、フィードバックを徹底した。
- ・ 話し方のチェック《短い説明、センテンスをシンプルに、繰り返しを少なく》
- ・ 事例・教材をより身近なものを選定した。
- ・ 小グループ討議を効果的に組み込んだ。
- ・ 達成感を味わわせる工夫（発表、評価面でも）を行った。
- ・ 厳しい態度で臨むことも必要
- ・ 実習先の指導者との綿密な事前打合せの徹底等でした。

《 研究科 》

研究科の授業評価では、前回 全科目でほぼ肯定的評価で占められていました。

これは、ほとんどが少人数（2～5人）での講義・演習で占められており、きめの細やかな指導によって、学生から一定の満足が得られているものと考えられます。したがって今回は「少人数の授業形態のものは」実施しませんでした。

2. 問題点・課題・改善策

これまでの授業評価や、各教員が工夫して行っている学生からのレスポンス把握を通じて、学生の反応を意識した授業を行おうとする教員のより強い姿勢があり、総合的に肯定的な評価への改善につながったものと考えられます。

資格取得科目の場合、学生は必修であれば努力はしますが、自発的に学ぼうという姿勢

が生まれにくい状況があります。自発性を引き出すための試みがなされ、前段でも述べたように、一定の数字は出ており、引き続き今後も改善の努力を続けることが必要です。

また、多人数の授業になればなるほど、学生間に理解度の差ができてしまう傾向があり、そのことが満足度を左右している可能性があります。

さらに、多くの教員が担当する実習科目の評価にバラつきが見られました。全体的な調整が必要です。

授業内容や教員の話の分かりやすさ、内容量の適切さ、資料の提示の仕方などの個々の問題については授業ごとに問題点が異なっており総括的なコメントは困難です。

(別紙)









